

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をととして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



高齢者医療研究会

副看護部長 新田 伊津美

よりよい地域医療や高齢者医療をめざし学びを重ねてきた「坂井・あわら高齢者医療研究会」は2月16日の開催で第10回を迎え、12施設から約80名の参加がありました。今回は「非がんの緩和チーム医療」をテーマに国立病院機構医王病院 院長 駒井清暢先生の特別講演と当院より3症例の実践報告がありました。

特別講演では「神経難病の緩和チーム医療」について、神経難病の緩和医療や緩和ケアのあり方や、医王病院でのチーム医療や緩和ケアの実際を話されました。神経難病患者にとって意思決定支援は重要でありチームとして関わる事、「その人にとってのよい最期」を迎えられることができるようエンド・オブ・ライフ・ケアの重要性を再認識しました。

実践報告では、病院や在宅での非がん・がん患者の緩和医療や緩和ケアについての発表でした。人生の最期をどう迎えるのか、医療者としてどのように支援するのか、改めて考える機会となりました。

高齢者がよりよい人生の最終段階を迎えることができるよう、今後も地域の医療機関と連携を図っていききたいと思います。

平成30年度を迎えて



院長
津谷 寛

春の陽気とともに平成30年度がスタートしました。あわら病院でも例年以上の多くのフレッシュな人材を迎えて新たな気持ちで日々の勤務に励んでいます。

さて、超高齢社会の到来を控え、今年度は医療、介護、障害などの報酬体制が大きく変わり、わが国の医療

福祉システムが次のステップに大きく踏み出しました。そのような環境の中で、国立病院機構の病院は地域から求められる医療機関としてあり続けるような役割を確立し、健全な経営のもと、質の高い医療、研究、教育研修の提供を継続していることが求められています。

当院はこの数年間、「在宅医療の充実」を目標に掲げ活動し、専門とする重症心身障がい、長寿、難病(神経、血液、リウマチ)の各医療分野において、地域に密

着した医療を追及しております。さらに、一昨年度からは「Hospital in the home, Home in the hospital」という概念のもと、在宅医療が入院医療のレベルになるように、入院生活が在宅生活のレベルになるように、入院・外来・在宅の体制を整備しているところです。昨年度は、重症心身障害児(者)、神経難病患者の方をはじめ多くの方に病院を利用いただきありがとうございました。

今年度もセーフティーネット医療を支える立場から、チームワークと効率性をキーワードとしてより多くの人により質の高い医療を届けれるようにしていきたいと思っております。「多くの笑顔のために」、職員一人ひとりの、そしてチームの力を信じて活動していきたいと考えていますのでよろしく願いいたします。



重心医療の今昔

重心病棟担当 診療部長 川満 徹

当院の重症心身障害児(者)病棟へ勤務する様になって、早や17年が経ってしまった。

当時の病棟は人工呼吸器を使っている患者さんもおらず、経管栄養している患者さんもおく少数という時代だった。現在の重心病棟と比較してみて、隔世の感に打たれ感慨深いものがある。

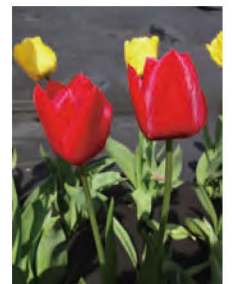
現在の医療的重症度の高い患者さんたちには、共通した病態がみられ易い。例えば慢性的な呼吸不全状態にある方の場合、排痰不足によって低酸素血症になったり無気肺を起こしたりという事が見られる。消化管機能に問題のある方の場合、便秘症が続いたり感染症に罹患したりした場合、容易に腸閉塞状態に陥る事がある。

そういう一つ一つの問題に対して、重心領域でも様々に対策が講じられてきた。特に日々進歩する医用

工学面の貢献は絶大なものがある。通常の人工呼吸器は勿論だが、それとは又異なるアプローチによって患者の呼吸機能の維持や改善に寄与しているものも増えてきた。

しかもそれらは、効率や安全性とともに患者に不必要な苦痛を与えない様に考慮されている物も多い様に思う。言わば患者サイドに立った設計という事が使用する側にとっても嬉しい側面である。

今後もより重症の患者さん達の入所も見込まれるところだが、より効率良く、かつ快適な医療環境とはどういうものかという事を考えながら、病棟勤務をこなしていけたらと思う今日この頃である。





地域医療連携施設のご紹介



あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

医療法人社団 修和会 片山津温泉・丘の上病院



医療法人社団 修和会

片山津温泉・丘の上病院

〒922-0421 石川県加賀市富塚町中尾1-3
TEL.0761-74-5575 FAX.0761-74-6382

〈併設事業所〉 重度認知症デイケア 丘の上デイケアセンター
介護老人保健施設 葵の園・丘の上
葵の園・丘の上デイケア／グループホーム 葵の園・じざい
丘の上在宅介護支援事業所／丘の上訪問介護事業所

診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土	備考
精神科・神経科	9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	休診日
	13:00～17:00	○	○	○	○	○	×	日・祝

入院:ご相談に応じます。

当院における認知症に対するリハビリテーションの取り組みをご紹介します。

当院では認知症の患者さんやそのご家族の方が安心して穏やかに退院できる日がくるよう、日常生活やレクリエーションなど様々な場面を治療の機会として捉えています。その中の一つとして体の運動と頭の体操を組み合わせた「脳トレ」を積極的に取り入れています。国立長寿医療研究センターでは、この「脳トレ」を行うことが、認知機能の低下を遅らせる効果があるということを明らかにしています。

ポイントとして①運動は全身を使い、軽く息がはずむ程度のものがいい、②運動と同時に実施する頭の体操は、簡単過ぎずたまに間違えてしまうくらいの難しさがいい、③皆で一緒に取り組み、間違えて笑って、試行錯誤しながら楽しんで行うことが大事、の3点が挙げられます。

内容としては、「足踏みをしながら数字を数え、3の倍数で手を叩く」といった同時にいくつもの事を行う課題に挑戦してもらっています。これが出来るようになると次は数字を100から減らすように数えたり、3と4の倍数の時に手を叩くなど徐々に難易度を上げていきます。ポイントをしっかりとおさえつつ、楽しみながら日々脳の活性化に努めています。

痛み度検査について

研究検査科 血液主任 榎本 暢

長期間続く痛み(慢性疼痛)のためにお困りの方の声を、診療の場面でもよくお聞きします。

あわら病院検査科では、言葉で伝える事の難しい『痛みの強さ』を客観的な数値で表す「痛み度検査」を行うことができます。痛みの強さを数値として共有することで、関節リウマチ、糖尿病など痛みを伴う様々な疾患の診療を、サポートさせていただきます。

《検査の様子》



患者さんの腕の内側にシール状の電極を取りつける



電極を付けた腕とは反対の腕でボタンを持ってもらう

《痛みの検査は2種類》

- ①電極に、痛みを伴わない微弱な電流を加えて少しずつ刺激を強くします。
皮膚に刺激を感じた時にボタンを押してもらいます。(電流知覚閾値検査)
- ②徐々に電流刺激を強めて、普段の痛みと同じ程度の痛みを感じた時にボタンを押してもらいます。(痛み度測定)

検査は10分ほどで終了します。痛みの強さを数値にして経過を追うことで、治療の補助診断となります。簡単な検査ですので、安心してお申し付けください。

外 来 担 当 医 表

(平成30年4月2日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総 合	内 科	津谷 寛	津谷 寛	見附 保彦	見附 保彦	宮崎 晋介
	小 児 科	大坂 陽子 *	川満 徹 *	大坂 陽子 *	湯浅 光織 *	川満 徹 *
専 門	リ ウ マ チ			津谷 寛	津谷 寛	
	血 液 ・ 腫 瘍			浦崎 芳正 *	大槻 希美	
	生 活 習 慣 病			鈴木 友輔 (第2・4)		
	老 年					桑田 敦 (第1・3・5) 桐場 千代 (第2・4)
	神 経			遠藤 芳徳 (第1・3・5)		
	循 環 器	見附 保彦	見附 保彦			
	外 科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整 形 外 科	浅井 一希				
	眼 科				吉岡 達也 *	
	皮 膚 科		若原 真美			若原 真美
	地 域 ケ ア	鈴木 友輔				
	禁 煙 外 来	見附 保彦	見附 保彦			

● 受付時間8:30～11:30 ● 黄色枠は予約制 ● *印は午後診察 ● 休診日／土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日・金曜日の午前中(9:00～11:00)です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(8:30～11:30)です。

あわら病院医療安全管理室について

医療安全管理係長 三谷 美紀

医療安全管理室では、医療安全対策と安全確保を推進するために、医療安全研修や医療安全活動を行っています。

医療安全管理室に、医療安全に関する事象の報告があれば、当該部署のリスクマネージャーと共に、事象の確認や影響レベルの検証、今後の対策の立案・実施を行っています。また、「ヒヤリとした」、「ハッとした」状況の「ヒヤリハット事例」を検証し、各部署と情報共有を行い、事故に繋がらないよう体制を築いています。

病院職員に対しては、年に2回、医療安全の研修を実施しており、平成29年度は6月に「高齢者虐待」、9月にはAED等を使用した「一次救命処置(BLS)」の研修を行いました。また12月には、医療安全活動で各職場が取り組んだ「私の職場のKYT・5S活動」について院内でポスターを掲示し、素晴らしい活動に対して各職員が投票する報告会を行いました。

平成30年度も研修等を行い、医療安全対策と安全確保の推進につとめて参りますので、あわら病院医療安全管理室をよろしくお願いいたします。



独立行政法人 国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北湯238-1 TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249
 〈地域医療連携室〉 TEL.0776-79-1212内線(785) FAX.0776-79-1261
 URL <http://www.awara-hosp.jp/>

【診療科】内科、小児科、外科、皮膚科、血液・腫瘍内科、リウマチ科、神経内科
 老年内科、循環器科、整形外科、眼科、リハビリテーション科

【病床数】172床

【教 育】日本内科学会認定教育関連施設、日本血液学会、日本リウマチ学会認定施設

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(5km)

乗合タクシー(デマンド交通) [事前予約が必要]

JR北陸本線芦原温泉駅より(10km)

乗合タクシー(デマンド交通) [事前予約が必要]